

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）  
 A：十分達成できている  
 B：おおむね達成できている  
 C：やや不十分である  
 D：不十分である

様式1（小・中）

学校名	武雄市立武雄小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上・・・一人一台端末を活用した授業実践と学力の向上につながる授業改善を行う。端末の活用により、一人一人のつまずきを把握して、個に応じた指導・支援の充実を図る。</li> <li>・望ましい生活習慣・・・家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯」の定着を図る。年間計画に基づく食育指導や、啓発のためのお便り、ゲームへの取り組みせりなどに関する講演会等を充実させる。</li> <li>・特別支援教育・・・すべての教職員が研修を深め、児童の実態に即した対応力を身に付ける。引き続き、児童理解を深めたり、保護者の対応をしたり、関係機関との連携を図りながら、支援を行っていく。</li> <li>・業務改善・働き方改革・・・それぞれの教職員が働き方に対する意識改革を行い、タイムマネジメントの能力の育成向上を目指す。定時退勤日の推奨をする。</li> </ul>
2 学校教育目標	夢と志をもち、意欲的に取り組み、自己肯定感に満ちた児童の育成
3 本年度の重点目標	<p>【志】 夢いっぱい、志をもってがんばる子ども</p> <p>【知】 やる気いっぱい、進んで学ぶ子ども</p> <p>【徳】 元気いっぱい、優しい子ども</p> <p>【体】 元気いっぱい、たくましい子ども</p>

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	最終評価		
						達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・45分完結と基礎・基本の確実な定着	○めあてとまとめ、振り返りを通して、理解したことを自覚したり、理解を深めたりすることができている」と回答した教師80%以上 ○児童との単元計画や評価の共有ができていると回答した教師の割合80%以上	・単元でどんな力を身に付けるのか、学習のゴールを明確にする。 ・めあてとまとめ、振り返りの授業を徹底する。 ・どの子も出番のある授業を行う。 ・単元や授業の可視化、評価の共有を通して、児童にとって個別最適で協働的に学ぶ環境を作る。					研究主任 学力向上コーディネーター
	○ICTを活用した教育の推進 ・1人1台端末を活用した授業改善	○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための授業改善における活用率90%以上	・スキルアップ研修や、低中高特での情報共有の時間、行内研修の時間を通して、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実のための授業改善に向け、情報共有等を行い、実践に生かす。					研究主任(徳永) 教育情報化推進リーダー
	○教師の授業力向上	○自己目標申告書の達成率80%以上	・校内研究のテーマであるメンタリングを通して、各教師が自分の課題解決に向けて目標設定を行い、自己目標申告書に反映させる。 ・OJTを活用したミニ研修会やメンターとメンティーのペアでの研修、全体研修等、職員の研修ニーズに合わせて取り組む。					
●心の教育	●◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、児童の豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めていると回答した教師90%以上	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の掲示コーナーに道徳の学習や学校行事等の足跡を残し、児童の心を育む環境づくりを定期的に行う。					道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校で安心して楽しく過ごせているという保護者の割合90%以上	・月に1回の「気になる子」報告会と、心のアンケートでいじめにつながる可能性がある事案の対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し職員全体で指導対応にあたる。 ・全教科を通して人権・同和教育を推進する。					人権・同和教育担当 生徒指導主任
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのおよところを認めてくれている」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」と肯定的な回答をした児童90%以上	・「キャリア・パスポート」を活用し、学校生活の中でめあてを持って振り返りを行ったりして自己評価を行い、主体的に学びに向かう力ややり抜く力を育成する。 ・各種体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実施する。					特活主任 各学級担任
●健康・体づくり	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を85%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童100%	①睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だよりや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を実現できるよう意識して指導する。					食育担当 養護教諭
	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する児童一人一人の学びの充実を大切にしようとする教師85%以上	・日々の体育の授業を中心にして、スポーツフェスタなどを動かすこと心地よきに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。					保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守。個人の勤務超過時間の平均40時間以内が実施できた職員85%以上	・毎週金曜日に定期退勤日を設け、定時退勤を呼び掛ける。 ・毎月「業務チェックシート」で、勤務時間の改善を図る。					教頭・事務長
	○働き方改革の本質の徹底	○行事や会議の削減・凝縮や、家庭・地域からの協力などにより、児童と向き合う時間が増えた職員85%以上	・行事や会議を効率的で効果的に削減・凝縮したり、教育DXを推進したりして、児童と向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。					教頭・事務長
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切に相談活動を充実させる。情報交換により児童理解ができた回答した教師を80%にする。	・計画的、定期的に会議(支援会議、スマイル会議、スクールカウンセラーのカウンセリングの報告、巡回相談等)を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。 ・全職員に対して児童理解に関する意識調査を行う。					特別支援教育部

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	最終評価		
						達成度 (評価)	実施結果	
○地域連携による共育	○民間の良さを取り込んだ「花まるタイム」の推進 ○地域とのつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○地域の方や官民一体型学校のよさを活用して、児童が生き生きと学習できる環境を構築する。地域の方のゲストティーチャー活用、花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々80%以上	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・地域の方と児童が交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用(地域との連携)					教務

5 総合評価・次年度への展望	●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育
----------------	------------------------------